

平成24年

2月26日(日)

自然とともに生きてきた山原人の10年後を考える
やんばる自然資源 × 地域づくりフォーラム

会場：国頭村民ふれあいセンター
時間：13:00～17:00 (12:30 開場)

入場無料

照葉樹林文化

地域産業と連携したツーリズム

海域保全と漁業の両立

多彩な森林経営

自然生態系農業の推進

森林と河川の管理手法

宮崎県綾町の事例を紹介

黒木 政則氏 (宮崎県綾町企画財政課長)

北海道知床の事例を紹介

山中 正実氏 (財)知床財団事務局長

コーディネーター

沖縄エコツーリズム推進協議会会長

花井 正光氏

スケジュール

綾町、知床からの話題提供・質疑応答 各60分

奄美、八重山からの報告 各15分

ディスカッション 60分

※フォーラム後は懇親会も予定しています。

主催 環境省那覇自然環境事務所 共催：沖縄県 (予定) 協力：国頭村、大宜味村、東村 (予定)

やんばる自然資源 × 地域づくりフォーラム

このフォーラムでは、先進事例として「宮崎県 綾町」「北海道 斜里町(知床)」からパネリストをお招きします。

10年前の綾町、知床の状況と今の状況についてお聞きします。

地域づくりについて、努力したこと、苦労したこと、成功したこと、

乗り越えてきたことなどを参考にして

10年後の「やんばる」がどのような道を歩んでいくのかを

考えるきっかけになるフォーラムにしたいと思います。

奄美地域と八重山地域からも講師を招き、各地域の事例を報告します。

ぜひご参加ください。

綾町(宮崎県)について

西日本最大の照葉樹林が残されており、「照葉樹林都市」や「有機農業の町」を掲げた町おこしを進めている。

綾町憲章(昭和58)には、“自然生態系を生かし育てる町にしよう”という一項が定められている。昭和63年に、全国初の「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定し、有機農業による農産物・畜産物が成功している。こうした有機農産物や加工食品等は、平成元年建設の「手づくりほんものセンター」で展示即売するなど、全国の直売所ブームの先駆けともなっている。

多彩な森林経営の模索を行うと同時に、平成19年には森林セラピー基地にも認定されている。平成17年には、広大な照葉樹林の森を協力して保護・復元していくことを目指し、行政、NPOなどによる「綾の照葉樹林プロジェクト」の協定書が取り交わされ、官・学・民が一体となった取り組みが行われている。



知床(北海道)について

知床半島の周辺海域は、北半球で最も南まで流氷が押し寄せる海で、流氷がもたらす海と陸がつながった豊かな生態系を有し、多様な動植物が生息する。平成17年に日本では3件目の世界自然遺産に登録された。持続可能な漁業の推進や、ヒグマなどの野生動物との共存など、利用と保全の両立に向けた取り組みが続いている。また、治山ダムなど河川工作物の改良等により、サケ科魚類の遡上回復など、生態系の回復に取り組んでいる。半島西岸の羅臼町では、「魚の城下町」をキャッチフレーズに水産物の全国ブランド化が進んでいる。西岸の斜里町でも、世界遺産登録などをきっかけに、“真の知床産”の優れた商品をブランド化し他の商品との差別化を図る「知床しゃりブランド制度」が平成21年から始まった。

昭和63年に斜里町が設立した知床財団は、知床の森を守る「しれとこ100平方メートル運動」におけるナショナルトラスト地の保全面積と、知床国立公園の原生自然の保全と適正な利用に組み、地域に根ざした活動を展開する、日本で初めての実践的活動組織である。



国頭村民ふれあいセンター 案内図

0980-41-3003



やんばるんちゅ

「自然とともに生きてきた山原人の10年後を考える」事務局
〒901-0155 沖縄県那覇市金城 5-11-4 1F (沖縄民間観光案内所「アーストリップ」内)
お申込はこちらへ

TEL 098(857)6545 FAX 098(911)1740

ふりがな
氏名

電話番号

住所 国頭村・大宜味村・東村 その他()

所属

会場の都合上、参加希望者多数の場合、先着順とさせていただきます。ご了承下さい。